

日本熱物性学会 2010年第1回役員会報告（HP版）

日 時：平成22年1月23日（土）役員会13：00～17：00

場 所：慶應義塾大学三田キャンパス 北館4F会議室

主な議題：

諸岡前会長より御挨拶があった。続いて高橋会長より御挨拶があった。

（1）新旧役員紹介（役員一覧）と前回議事録確認

新旧役員の自己紹介が行われた。また、役員名簿について確認が行われた。田口評議員より前回議事録の確認があり、問題なく了承された。

（2）学生ベストプレゼンテーション賞選考結果報告

佐藤春樹企画担当理事より、第30回日本熱物性シンポジウム第7回学生ベストプレゼンテーション賞の審査報告があった。昨年度と同じ方法で審査を行い、佐藤真奈美先生に集計をお願いした旨の説明があった。プログラムを変更し懇親会前までに学生発表を終えることで、懇親会で表彰することができたとのこと。一部の部屋で評価が非常に高い結果となってしまう、表彰委員会で慎重に審査した旨の説明があった。評価の公平性ならびに公平性が見えるような審査方法を今後検討していく必要があるとのこと。

（3）第30回日本熱物性シンポジウム報告

高橋第30回日本熱物性シンポジウム実行委員長より、第30回日本熱物性シンポジウムの開催報告があった。東京地区で開催したシンポジウムと同数の講演申し込みがあったとのこと。シンポジウム参加人数は合計311名（内訳：正会員/協賛共催会員152名、非会員33名、学生/アルバイト92名、名誉員2名、特別講演/市民講座講師4名、市民28名）であった。

（4）覚書の確認

長坂事務局担当より、日本熱物性学会の運営に関する覚書の説明があった。役員の役員会出張旅費についての説明があった。＜8＞支出2.（2）役員の役員会出張旅費の規定について「片道5時間以上要する場合」に修正することで了承された。また、シンポジウム講演論文集の保管数について第30回（米沢）の項目を追記することになった。

諸岡理事より、特別表彰者の推薦規定について提案があった。「貢献賞、功労賞、名誉員とは別に、学会の運営や活動に貢献があった方を会長、副会長、表彰委員長の協議の下に適宜表彰することができる。」という改正案が問題なく了承された。

(5) 平成21年活動・決算報告

長坂事務局担当より、平成22年度の事業計画についての説明があった。また、収支決算報告があった。監事の田中隆先生ならびに太田弘道先生にご確認いただき、監査は無事終了している旨の報告があった。収支決算書については役員会で承認されるものであるため、総会では収支決算を報告するだけに留めることに決定した。収支明細書の記載項目（シンポジウム事業費の記載方法等）は事務局で検討し、後日審議することになった。

高橋第30回日本熱物性シンポジウム実行委員長より、第30回日本熱物性シンポジウムの収支決算報告があった。265件の参加登録、講演論文集の販売が173件あった。CDは650枚、プログラム集が350冊、講演論文集は300冊作成したとのこと。

(6) 平成22年事業計画

長坂事務局担当より、平成22年度の事業計画について説明があった。シンポジウムが学会最大の事業であり、今年は九州地区（実行委員長：高田保之先生）で開催することが決定している旨の説明があった。研究分科会については、「建物外皮の熱物性とシステムデザイン」が終了し、「高温融体物性と材料プロセス」が新しく発足すること。また、30周年記念事業についても計画している。各種委員会について説明があり、東京事務所は今年度は設置しないとの報告があった。「名簿の発行」を主な活動計画に記載することが決定した。第31期事業計画については、誤記等を修正し問題なく了承された。

(7) 平成22年予算案

長坂事務局担当より、平成22年収支予算（案）について説明があった。収入の部のほとんどは会費収入であり、安定した状態である旨の説明があった。名簿印刷費が今年度は新たに計上されているとのこと。

(8) 第31回日本熱物性シンポジウム準備状況

高田第31回日本熱物性シンポジウム実行委員長より、第31回日本熱物性シンポジウムの準備状況について説明があった。2010年11月17日～19日に九州大学・伊都キャンパスで開催すること。講演申し込みは2010年7月13日、原稿締め切りは2010年9月14日に予定している。日程はATPCや他学会の講演会を勘案して決定した旨の説明があった。シンポジウム会場は稲盛財団記念館ならびに循環型社会システム工学研究センターを予定しており、総会・特別講演・学会設立30周年記念講演会は総合学習プラザで開催する予定であるとのこと。参加登録費、講演論文集費は例年通りである。特別講演は、都甲潔先生に「味と匂いを測る感性ナノバイオセンサの開発」というタイトルでご講演いただくことになっているとのこと。総会の時間配分については、執行部・事務局・規約等整備担当理事と相談して決定することになった。

長坂事務局担当より、第32回日本熱物性シンポジウムについて説明があった。第32回日本熱物性シンポジウムは東京地区で開催する予定であるとのこと。長坂先生を実行委員長として実行委員会を発足し、日程等を決めていきたいとのこと。

(9) 創立30周年記念事業について

佐藤春樹企画担当理事より、創立30周年記念事業について説明があった。宮崎広報担当理事のご尽力により、ホームページリニューアル事業は完了したとのこと。シンポジウム論文集、ATPC論文集、学会誌のデジタル化を現在行っているとのこと。30周年記念出版補助費は計上しないことが確認された。牧野30周年記念企画委員会委員長より、熱物性誌30周年記念号の説明があった。熱物性誌30周年記念号については、吉田前編集委員長にご協力いただくことに決定した。

30周年記念事業について、評議員全員より意見を伺った。データベースや学会の歴史・苦勞話は興味深いという意見が多数あった一方で、30周年記念式典を第31回日本熱物性シンポジウム会期前日に開催するのは厳しいのではないかという意見が多数寄せられた。30周年記念式典の日程は、創始者の方々の予定等を確認し、実行委員会で案を再度検討することになった。

(10) 各種委員会について

編集委員会について

東編集委員長より、編集委員会について説明があった。2月までは吉田前編集委員長が顧問的な立場として協力いただく旨の説明があった。

研究分科会について

マイクロ・ナノスケールの熱物性とシステムデザイン

宮崎オーガナイザーより、活動報告があった。ハンドブック作成が遅れているので、今年中に出版するよう努力したい旨の説明があった。

建物外皮の熱物性とシステムデザイン

吉田オーガナイザーより、活動報告があった。活動報告書を100部作成したので、是非活用いただきたいとのこと。

生活環境懇話会 II

諸岡オーガナイザーより、活動報告があった。報告書を作成し、売り上げは生活環境懇話会 II の運営経費にさせていただいているとのこと。

低温環境における熱物性の基礎と応用

田中明美オーガナイザーより、活動報告があった。テキスト等についても準備を始めている

とのこと。また、海外での講演会も予定している旨の説明があった。

宇宙材料の熱物性とシステムデザイン

長野オーガナイザーより、活動報告があった。ハンドブックの作成を行っているとのこと。

記念誌データベース作成のため、オーガナイザーは今後研究分科会の活動内容（講演会開催日程等）を牧野30周年記念事業実行委員会委員長に連絡することになった。

広報委員会について

宮崎広報委員長より、活動報告があった。コンテンツをいただきたいとのこと。フロントページコラムを指名して、投稿していただくことになった。

熱物性アーカイブ化について

長坂事務局担当より、JSTの電子アーカイブ化事業採択について説明があった。著作権譲渡について現在問い合わせをしているとのこと。

（1 1）共催・協賛関係

長坂事務局担当より、共催・協賛関係の報告があった。竹歳評議員より、e-thermoについて協賛したい旨のお願いがあった。

（1 2）会員異動

長坂事務局担当より、会員異動の報告があった。会員未納者について、事務局で対応していくとのこと。優秀プレゼン賞の審査資格に学生会員であることを加えてはどうか、という意見があったが、幽霊会員を増やす原因にもなりかねないという意見も出た。

（1 3）その他

長坂事務局担当より、平成22年日本熱物性学会スケジュール（案）の説明があった。

佐藤真奈美副会長より、長年学会の運営に携われた吉田前編集委員長、藤井前表彰委員長、泰岡東京連絡事務所担当理事にお礼を述べられた。

以上